

学校コード F115310105239  
注3

設置年度 令和 2年度  
計画の区分： 専門職大学の設置  
注1



注2  
開志専門職大学

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書  
(改正前大学設置基準適用)

学校法人新潟総合学院  
令和5年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	開志専門職大学事務局
職名・氏名	シムキョクチョウ コンペイタクヤ 事務局長 権瓶 拓也
電話番号	025-240-8118
（夜間）	080-1003-6479
e-mail	soumu@kaishi-pu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/mext\\_01087.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html)

# 目次

## 情報学部

<情報学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	29
7. その他全般的事項	33
別添資料①	36
別添資料②	39
補足説明資料（専門職大学等）	40

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人新潟総合学院

## (2) 大学名

開志専門職大学

## (3) 調査対象大学等の位置

【紫竹山キャンパス】

〒950-0914

新潟県新潟市中央区紫竹山6丁目3番5号

【米山キャンパス】

〒950-0916

新潟県新潟市中央区米山3丁目1番53号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イケダ ショウゴ) 池田 祥護 平成21年4月1日		
学長	(キタバタ タカオ) 北畑 隆生 令和2年4月1日		
学部長	(ミカミ ヨシキ) 三上 喜貴 令和2年4月1日		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
 (例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)  
 令和5年度に報告する内容 → (5)  
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
情報学部 情報学科 情報学士(専門職)	工学関係	4年	80人	2年次 - 3年次 - 4年次 - 人	320人	-	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A	入学定員	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	0.87倍	一倍	0.78倍	一倍	
	志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]					
	受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]					
	合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]					
	B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]					
	入学定員超過率 B/A					1.00		0.90		1.00		0.60							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
- ・ ( )内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
- ・ また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	77 [ 3 ] ( - )	- [ - ] ( - )	67 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	73 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	47 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
2年次			[ ] ( )	[ ] ( )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	74 [ 3 ] ( - )	- [ - ] ( - )	62 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	73 [ 1 ] ( - )	- [ - ] ( - )	
3年次					- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	70 [ 3 ] ( - )	- [ - ] ( - )	61 [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	
4年次							- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	- [ - ] ( - )	70 [ 3 ] ( - )	- [ - ] ( - )	
計	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	77 [ 3 ] ( - )		141 [ 3 ] ( - )		205 [ 4 ] ( - )		251 [ 4 ] ( - )		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	80 人	3 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、進路変更(1人)
令和3年度	149 人	8 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	3 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、進路変更(1人)
			令和3年度	5 人	0 人	学力不足(2人)、学生個人の心身に関する事情(2人)、家庭の事情(1人)
令和4年度	221 人	16 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	4 人	0 人	学力不足(1人)、学生個人の心身に関する事情(1人)、進路変更1人、家庭の事情(1人)
			令和3年度	5 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(3人)、家庭の事情(2人)
			令和4年度	7 人	0 人	学力不足(3人)、学生個人の心身に関する事情(4人)
令和5年度	251 人	2 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	1 人	0 人	学生個人の心身に関する事情(1人)
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)
合計		29 人		29 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。  
 ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)  
 ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。  
 ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。  
 ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{80} = \boxed{3.75} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{149} = \boxed{5.36} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{16}{221} = \boxed{7.23} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{251} = \boxed{0.79} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<情報学部 情報学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1									1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1									1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1									1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2④	1									1
	中国語コミュニケーション	4③④			1							1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1							1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1							1
	情報リテラシー	1①	2			1						
	日本語コミュニケーション	1①②	2									1
	現代経済学	2①②		2								1
	現代産業論	2①②		2								1
	現代企業論	3①②		2								1
	現代史と国際関係論	3①②		2								1
	現代の科学技術	2④		2		1						
	現代実践法学	2①②		2								1
	現代社会学	2①②		2								1
	国際動態論	4④		2								1
	キャリアデザインⅠ	1①	1									1
	キャリアデザインⅡ	2②	1									1
キャリアデザインⅢ	3②	1									1	
ビジネスモラル	1①	1									1	
小計(21科目)	-	-	14	14	3	2	0	0	0	0	0	13
職業専門科目	情報の基礎	1①	1			1						
	トッパンナー研究	1④②	2			1						
	情報と法律	1③④	2			1						
	情報と経営	2①②	2			1						
	情報と倫理	3①	1			1						
	情報と英語	4①②		2		1						
	コンピュータアーキテクチャ	1①	2			1						
	オペレーティングシステム	1②	2			1		1				
	線形代数	1①②	2			2						
	微分積分	1③④	2			2						
	確率論	1③④	2			1						
	統計学	2①②	2			1						
	データ構造とアルゴリズム	1①	2			2						
	プログラミングⅠ	1②	2			1		1				
	プログラミングⅡ	1③	2			1		1				
	ネットワークプログラミング実習【※】	2①②	2			2			1	1		
	API実習【※】	2④	2			1		1		1		
	情報通信ネットワーク	1②	1			1						
	ネットワーク演習	1③④	2			2						
	分散型台帳技術	3①②	2			1						
	情報セキュリティ	1③④	2			1						
	サイバーセキュリティ演習	2①②	2			1						
	サイバーセキュリティ実習【※】	3①②	2			1						1
データベースの基礎	1③④	2			1		1					
データベース演習	2①②	2			1		1		1			
システムモデリング	1②	1					1					
システム開発技術	2①②		2		1							
臨地実務実習Ⅰ【臨】	2③	5			12	1	2	1	2			
臨地実務実習Ⅱ【臨】	3③④	15			12	1	2	1	2			
クラウド技術概論	2①②		2		1							

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1									1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1									1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1									1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2④	1									1
	中国語コミュニケーション	4③④			1							1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1							1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1							1
	情報リテラシー	1①	2					1				
	日本語コミュニケーション	1①②	2									1
	現代経済学	2①②		2								1
	現代産業論	2①②		2								1
	現代企業論	3①②		2								1
	現代史と国際関係論	3①②		2								1
	現代の科学技術	2④		2				1				
	現代実践法学	2①②		2								1
	現代社会学	2①②		2								1
	国際動態論	4④		2								1
	キャリアデザインⅠ	1①	1									1
	キャリアデザインⅡ	2②	1									1
キャリアデザインⅢ	3②	1									1	
ビジネスモラル	1①	1									1	
小計(21科目)	-	-	14	14	3	2	0	0	0	0	0	14
職業専門科目	情報の基礎	1①	1			1						
	トッパンナー研究	1④②	2			1						1
	情報と法律	1③④	2					0				1
	情報と経営	2①②	2			1						
	情報と倫理	3①	1					0				1
	情報と英語	4①②		2		1						1
	コンピュータアーキテクチャ	1①	2			1						
	オペレーティングシステム	1②	2			1				1		
	線形代数	1①②	2			2						
	微分積分	1③④	2			2						
	確率論	1③④	2			1						
	統計学	2①②	2			1						
	データ構造とアルゴリズム	1①	2			2						
	プログラミングⅠ	1②	2			1		1				
	プログラミングⅡ	1③	2			1		1				
	ネットワークプログラミング実習【※】	2①②	2			2				1		0
	API実習【※】	2④	2			1		1				0
	情報通信ネットワーク	1②	1			1						
	ネットワーク演習	1③④	2			2						
	分散型台帳技術	3①②	2			1						
	情報セキュリティ	1③④	2			1						
	サイバーセキュリティ演習	2①②	2			1						
	サイバーセキュリティ実習【※】	3①②	2			1						0
データベースの基礎	1③④	2			1		1					
データベース演習	2①②	2			1		1		1			
システムモデリング	1②	1					1					
システム開発技術	2①②		2		1							
臨地実務実習Ⅰ【臨】	2③	5			12	1	2	2	1		0	
臨地実務実習Ⅱ【臨】	3③④	15			12	1	2	2	1		0	
クラウド技術概論	2①②		2		1							

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
職業専門科目	クラウドベーシック&マーケティング	3①	2					1			
	クラウドプラットフォーム実習Ⅰ【※】	3②	2					1	1		
	クラウドプラットフォーム実習Ⅱ【※】	4①②	2					1	1		
	サイバーフィジカルシステム基礎	1③	2			1					
	IoT演習	2②	2			1					
	IoT実習【※】	3①	2			1			1		
	ハードウェア設計	3②	2			1					
	ロボティクス実習【※】	4①②	2			1			1		
	没入型コンピューティング	1④	2					1			
	没入型コンピューティング実習【※】	2④	2					1	1		
	ユーザエクスペリエンス	2④	2			1					
	情報科学基礎	1①②	2			1					
	知識表現・知識処理	2①②	2			1					
	AI実習【※】	3①②	2			2			1		
	マシンラーニング	3②	2			1					
	マシンラーニング実習【※】	4①②	2			1			1		
	データサイエンス演習	2②	2							1	
	データサイエンス実習【※】	3①	2						1	1	
	データマイニング演習	4①②	2							1	
	ICT演習(ハードウェア/ソフトウェア)	2②	1					1			
	ICT演習(セキュリティ)	2④	2					1			
	ICT演習(基本情報)	2④	2						1		
ICT演習(クラウド)	3①	2					1				
ICT演習(応用情報)	3②	2					1				
ICT演習(IoT)	4①	2			1						
ICT演習(マシンラーニング)	4①	2			1						
ICT演習(セキュリティスペシャリスト)	4②	2			1						
ICT演習(組込システム)	4④	2			1						
ICT演習(データベーススペシャリスト)	4④	2			1						
小計(59科目)	-	76	53	0	12	1	4	1	2	1	
展開科目	新潟と地域社会	1③④	2							1	
	デザイン・シンキング概論	1③④	2			1					
	ソーシャルデザインⅠ	2①②	2							1	
	ソーシャルデザインⅡ	3①②	2							1	
	ソーシャルデザイン実習【※】	4①②	2				1		1		
	デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】	2①	1			1				1	
	デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】	3①	1			1				1	
	情報産業論	2①②	2			1					
	国際文化と伝統	3①②	2			1					
	社会心理・消費者行動	1③④	2			1					
	マーケティング	2①②	2			1					
	マーケティング実践	3①②	2				1				
小計(12科目)	-	22	0	0	3	1	1	0	2	3	
総合科目	ICT活用総合実習【※】	4通	4			10	1	2	1	2	
	小計(1科目)		4	0	0	10	1	2	1	2	
合計(93科目)	-	116	67	3	12	1	4	1	2	17	
卒業要件及び履修方法											
基礎科目群の必修科目14単位と選択科目から6単位以上、職業専門科目群の必修科目76単位と選択科目8単位以上、展開科目群22単位、総合科目4単位、あわせて130単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))											

【令和5年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
職業専門科目	クラウドベーシック&マーケティング	3①	2					1		
	クラウドプラットフォーム実習Ⅰ【※】	3②	2					1		0
	クラウドプラットフォーム実習Ⅱ【※】	4①②	2					1		0
	サイバーフィジカルシステム基礎	1③	2					0	1	
	IoT演習	2②	2			1				1
	IoT実習【※】	3①	2			1				1
	ハードウェア設計	3②	2			0		1		
	ロボティクス実習【※】	4①②	2			0		1		0
	没入型コンピューティング	1④	2						1	
	没入型コンピューティング実習【※】	2④	2						1	0
	ユーザエクスペリエンス	2④	2						1	
	情報科学基礎	1③④	2					1		
	知識表現・知識処理	2①②	2					1		
	AI実習【※】	3①②	2					2		0
	マシンラーニング	3②	2			1				
	マシンラーニング実習【※】	4①②	2			1				0
	データサイエンス演習	2②	2							3
	データサイエンス実習【※】	3①	2							0
	データマイニング演習	4①②	2							3
	ICT演習(ハードウェア/ソフトウェア)	2②	1						1	
	ICT演習(セキュリティ)	2④	2						1	
	ICT演習(基本情報)	2④	2							1
ICT演習(クラウド)	3①	2						1		
ICT演習(応用情報)	3②	2						1		
ICT演習(IoT)	4①	2					0	1		
ICT演習(マシンラーニング)	4①	2			1					
ICT演習(セキュリティスペシャリスト)	4②	2			1					
ICT演習(組込システム)	4④	2					0	1		
ICT演習(データベーススペシャリスト)	4④	2			1					
小計(59科目)	-	76	53	0	10	2	4	1	1	7
展開科目	新潟と地域社会	1③④	2							1
	デザイン・シンキング概論	1③④	2					1		
	ソーシャルデザインⅠ	2①②	2							1
	ソーシャルデザインⅡ	3①②	2							1
	ソーシャルデザイン実習【※】	4①②	2						1	0
	デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】	2①	1						1	
	デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】	3①	1						1	0
	情報産業論	2①②	2			1				
	国際文化と伝統	3①②	2			1				
	社会心理・消費者行動	1③④	2			1				
	マーケティング	2①②	2			1				
	マーケティング実践	3①②	2						1	2
小計(12科目)	-	22	0	0	3	1	1	0	0	5
総合科目	ICT活用総合実習【※】	4通	4					9	2	2
	小計(1科目)		4	0	0			9	2	2
合計(93科目)	-	116	67	3	10	2	4	1	1	26
卒業要件及び履修方法										
基礎科目群の必修科目14単位と選択科目から6単位以上、職業専門科目群の必修科目76単位と選択科目8単位以上、展開科目群22単位、総合科目4単位、あわせて130単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))										



【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1								1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1								1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1								1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2④	1								1
	中国語コミュニケーション	4③④			1						1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1						1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1						1
	情報リテラシー	1①	2			1					
	日本語コミュニケーション	1①②	2								1
	現代経済学	2①②		2							1
	現代産業論	2①②		2							1
	現代企業論	3①②		2							1
	現代史と国際関係論	3①②		2							1
	現代の科学技術	2④		2		1					
	現代実践法学	2①②		2							1
	現代社会学	2①②		2							1
	国際動向論	4④		2							1
キャリアデザインⅠ	1①	1								1	
キャリアデザインⅡ	2②	1								1	
キャリアデザインⅢ	3②	1								1	
ビジネスモラル	1①	1								1	
小計(21科目)		-	14	14	3	2	0	0	0	0	14
職業専門科目	情報の基礎	1①	1			1					
	トプランナー研究	1④②	2			1					
	情報と法律	1③④	2			0					1
	情報と経営	2①②	2			1					
	情報と倫理	3①	1			1					
	情報と英語	4①②		2		0					
	コンピュータアーキテクチャ	1①	2			1					
	オペレーティングシステム	1②	2			1		1			
	線形代数	1①②	2			2					
	微分積分	1③④	2			2					
	確率論	1③④	2			1					
	統計学	2①②	2			1					
	データ構造とアルゴリズム	1①	2			2					
	プログラミングⅠ	1②	2			1		1			
	プログラミングⅡ	1③	2			1		1			
	ネットワークプログラミング実習【※】	2①②	2			2			1	1	
	API実習【※】	2④	2			1		1			1
	情報通信ネットワーク	1②	1			1					
	ネットワーク演習	1③④	2			2					
	分散型台帳技術	3①②	2			1					
	情報セキュリティ	1③④	2			1					
	サイバーセキュリティ演習	2①②	2			1					
	サイバーセキュリティ実習【※】	3①②	2			1					1
データベースの基礎	1③④	2			1		1				
データベース演習	2①②	2			1		1				
システムモデリング	1②	1					1				
システム開発技術	2①②		2		1						
臨地実務実習Ⅰ【臨】	2③	5			10	2	2	1	2		
臨地実務実習Ⅱ【臨】	3③④	15			10	2	2	1	2		
クラウド技術概論	2①②		2		1						

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1								1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1								1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1								1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2④	1								1
	中国語コミュニケーション	4③④			1						1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1						1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1						1
	情報リテラシー	1①	2					1			
	日本語コミュニケーション	1①②	2								1
	現代経済学	2①②		2							1
	現代産業論	2①②		2							1
	現代企業論	3①②		2							1
	現代史と国際関係論	3①②		2							1
	現代の科学技術	2④		2			1				
	現代実践法学	2①②		2							1
	現代社会学	2①②		2							1
	国際動向論	4④		2							1
キャリアデザインⅠ	1①	1								1	
キャリアデザインⅡ	2②	1								1	
キャリアデザインⅢ	3②	1								1	
ビジネスモラル	1①	1								1	
小計(21科目)		-	14	14	3	2	0	0	0	0	13
職業専門科目	情報の基礎	1①	1			1					
	トプランナー研究	1④②	2			1					
	情報と法律	1③④	2			1					
	情報と経営	2①②	2			1					
	情報と倫理	3①	1			1					
	情報と英語	4①②		2		1					
	コンピュータアーキテクチャ	1①	2			1					
	オペレーティングシステム	1②	2			1			1		
	線形代数	1①②	2			2					
	微分積分	1③④	2			2					
	確率論	1③④	2			1					
	統計学	2①②	2			1					
	データ構造とアルゴリズム	1①	2			2					
	プログラミングⅠ	1②	2			1			1		
	プログラミングⅡ	1③	2			1			1		
	ネットワークプログラミング実習【※】	2①②	2			2				1	1
	API実習【※】	2④	2			1			1		1
	情報通信ネットワーク	1②	1			1					
	ネットワーク演習	1③④	2			2					
	分散型台帳技術	3①②	2			1					
	情報セキュリティ	1③④	2			1					
	サイバーセキュリティ演習	2①②	2			1					
	サイバーセキュリティ実習【※】	3①②	2			1					1
データベースの基礎	1③④	2			1			1			
データベース演習	2①②	2			1			1			
システムモデリング	1②	1						1			
システム開発技術	2①②		2		1						
臨地実務実習Ⅰ【臨】	2③	5			12	1	2	1	2		
臨地実務実習Ⅱ【臨】	3③④	15			12	1	2	1	2		
クラウド技術概論	2①②		2		1						

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
職業専門科目	クラウドベネフィット&マーケティング	3①	2					1			
	クラウドプラットフォーム実習Ⅰ【※】	3②	2					1		1	
	クラウドプラットフォーム実習Ⅱ【※】	4①②	2					1		1	
	サイバーフィジカルシステム基礎	1③	2			0	1				
	IoT演習	2②	2			1					
	IoT実習【※】	3①	2			1				1	
	ハードウェア設計	3②	2			0	1				
	ロボティクス実習【※】	4①②	2			0	1			1	
	没入型コンピューティング	1④	2					1			
	没入型コンピューティング実習【※】	2④	2					1		1	
	ユーザエクスペリエンス	2④	2				1				
	情報科学基礎	1③④	2			1					
	知識表現・知識処理	2①②	2			1					
	AI実習【※】	3①②	2			2				1	
	マシンラーニング	3②	2			1					
	マシンラーニング実習【※】	4①②	2			1				1	
	データサイエンス演習	2②	2							3	
	データサイエンス実習【※】	3①	2							3	
	データマイニング演習	4①②	2							1	
	ICT演習(ハードウェア/ソフトウェア)	2②	1						1		
	ICT演習(セキュリティ)	2④	2					1			
	ICT演習(基本情報)	2④	2						1		
	ICT演習(クラウド)	3①	2						1		
	ICT演習(応用情報)	3②	2						1		
	ICT演習(IoT)	4①	2			0	1				
	ICT演習(マシンラーニング)	4①	2			1					
ICT演習(セキュリティスペシャリスト)	4②	2			1						
ICT演習(組込システム)	4④	2			0	1					
ICT演習(データベーススペシャリスト)	4④	2			1						
小計(59科目)	-	76	53	0	11	2	4	1	2	5	
展開科目	新潟と地域社会	1③④	2							1	
	デザイン・シンキング概論	1③④	2				1				
	ソーシャルデザインⅠ	2①②	2							1	
	ソーシャルデザインⅡ	3①②	2							1	
	ソーシャルデザイン実習【※】	4①②	2				1		1		
	デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】	2①	1				1			1	
	デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】	3①	1				1			1	
	情報産業論	2①②	2			1					
	国際文化と伝統	3①②	2			1					
	社会心理・消費者行動	1③④	2			1					
	マーケティング	2①②	2			1					
	マーケティング実践	3①②	2					1		2	
小計(12科目)	-	22	0	0	3	1	0	2	2	5	
総合科目	ICT活用総合実習【※】	4通	4			9	2	2	1	2	
	小計(1科目)	-	4	0	0	9	2	2	1	2	
合計(93科目)	-	116	67	3	11	2	4	1	2	24	
卒業要件及び履修方法											
基礎科目群の必修科目14単位と選択科目から6単位以上、職業専門科目群の必修科目76単位と選択科目8単位以上、展開科目群22単位、総合科目4単位、あわせて130単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))											

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
職業専門科目	クラウドベネフィット&マーケティング	3①	2					1		
	クラウドプラットフォーム実習Ⅰ【※】	3②	2					1		1
	クラウドプラットフォーム実習Ⅱ【※】	4①②	2					1		1
	サイバーフィジカルシステム基礎	1③	2					1		
	IoT演習	2②	2			1				
	IoT実習【※】	3①	2			1				1
	ハードウェア設計	3②	2			0	1			
	ロボティクス実習【※】	4①②	2			0	1			1
	没入型コンピューティング	1④	2							1
	没入型コンピューティング実習【※】	2④	2							1
	ユーザエクスペリエンス	2④	2						1	
	情報科学基礎	1③④	2			1				
	知識表現・知識処理	2①②	2			1				
	AI実習【※】	3①②	2			2				1
	マシンラーニング	3②	2			1				
	マシンラーニング実習【※】	4①②	2			1				1
	データサイエンス演習	2②	2							1
	データサイエンス実習【※】	3①	2							1
	データマイニング演習	4①②	2							1
	ICT演習(ハードウェア/ソフトウェア)	2②	1						1	
	ICT演習(セキュリティ)	2④	2						1	
	ICT演習(基本情報)	2④	2						1	
	ICT演習(クラウド)	3①	2						1	
	ICT演習(応用情報)	3②	2						1	
	ICT演習(IoT)	4①	2			1				
	ICT演習(マシンラーニング)	4①	2			1				
ICT演習(セキュリティスペシャリスト)	4②	2			1					
ICT演習(組込システム)	4④	2			1					
ICT演習(データベーススペシャリスト)	4④	2			1					
小計(59科目)	-	76	53	0	12	1	4	1	2	1
展開科目	新潟と地域社会	1③④	2							1
	デザイン・シンキング概論	1③④	2					1		
	ソーシャルデザインⅠ	2①②	2							1
	ソーシャルデザインⅡ	3①②	2							1
	ソーシャルデザイン実習【※】	4①②	2				1		1	
	デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】	2①	1				1			1
	デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】	3①	1				1			1
	情報産業論	2①②	2			1				
	国際文化と伝統	3①②	2			1				
	社会心理・消費者行動	1③④	2			1				
	マーケティング	2①②	2			1				
	マーケティング実践	3①②	2						1	
小計(12科目)	-	22	0	0	3	1	1	0	2	3
総合科目	ICT活用総合実習【※】	4通	4			10	1	2	1	2
	小計(1科目)	-	4	0	0	10	1	2	1	2
合計(93科目)	-	116	67	3	12	1	4	1	2	17
卒業要件及び履修方法										
基礎科目群の必修科目14単位と選択科目から6単位以上、職業専門科目群の必修科目76単位と選択科目8単位以上、展開科目群22単位、総合科目4単位、あわせて130単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))										

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1①②	1							1
	英語コミュニケーションⅡ	1③④	1							1
	英語プレゼンテーション演習Ⅰ	2①②	1							1
	英語プレゼンテーション演習Ⅱ	2④	1							1
	中国語コミュニケーション	4③④			1					1
	韓国語コミュニケーション	4③④			1					1
	ロシア語コミュニケーション	4③④			1					1
	情報リテラシー	1①	2			1				
	日本語コミュニケーション	1①②	2							1
	現代経済学	2①②		2						1
	現代産業論	2①②		2						1
	現代企業論	3①②		2						1
	現代史と国際関係論	3①②		2						1
	現代の科学技術	2④		2		1				
	現代実践法学	2①②		2						1
	現代社会学	2①②	2							1
	国際動向論	4④		2						1
	キャリアデザインⅠ	1①	1							1
	キャリアデザインⅡ	2②	1							1
	キャリアデザインⅢ	3②	1							1
	ビジネスモラル	1①	1							1
小計(21科目)		-	14	14	3	2	0	0	0	13
職業専門科目	情報の基礎	1①	1			1				
	トップランナー研究	1④②	2			1				
	情報と法律	1③④	2			1				
	情報と経営	2①②	2			1				
	情報と倫理	3①	1			1				
	情報と英語	4①②		2		1				
	コンピュータアーキテクチャ	1①	2			1				
	オペレーティングシステム	1②	2			1		1		
	線形代数	1①②	2			2				
	微積分	1③④	2			2				
	確率論	1③④	2			1				
	統計学	2①②	2			1				
	データ構造とアルゴリズム	1①	2			2				
	プログラミングⅠ	1②	2			1		1		
	プログラミングⅡ	1③	2			1		1		
	ネットワークプログラミング実習【※】	2①②	2			2			1	1
	API実習【※】	2④	2			1		1		1
	情報通信ネットワーク	1②	1			1				
	ネットワーク演習	1③④	2			2				
	分散型台帳技術	3①②	2			1				
	情報セキュリティ	1③④	2			1				
	サイバーセキュリティ演習	2①②	2			1				
	サイバーセキュリティ実習【※】	3①②	2			1				1
	データベースの基礎	1③④	2			1		1		
	データベース演習	2①②	2			1		1		
	システムモデリング	1②	1					1		
	システム開発技術	2①②		2		1				
臨地実務実習Ⅰ【臨】	2③	5			12	0	2	1	2	
臨地実務実習Ⅱ【臨】	3③④	15			12	0	2	1	2	
クラウド技術概論	2①②		2		1					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
職業専門科目	クラウドベーシック&マーケティング	3①		2					1		
	クラウドプラットフォーム実習Ⅰ【※】	3②		2					1		1
	クラウドプラットフォーム実習Ⅱ【※】	4①②		2					1		1
	サイバーフィジカルシステム基礎	1③	2				1				
	IoT演習	2②		2			1				
	IoT実習【※】	3①		2			1				1
	ハードウェア設計	3②		2			1				
	ロボティクス実習【※】	4①②		2			1				1
	没入型コンピューティング	1④	2						1		
	没入型コンピューティング実習【※】	2④		2					1		1
	ユーザエクスペリエンス	2④		2				0			
	情報科学基礎	1③④	2				1				
	知識表現・知識処理	2①②	2				1				
	AI実習【※】	3①②	2				2				1
	マシンラーニング	3②		2			1				
	マシンラーニング実習【※】	4①②		2			1				1
	データサイエンス演習	2②		2							1
	データサイエンス実習【※】	3①		2							1
	データマイニング演習	4①②		2							1
	ICT演習(ハードウェア/ソフトウェア)	2②		1						1	
	ICT演習(セキュリティ)	2④		2					1		
ICT演習(基本情報)	2④		2						1		
ICT演習(クラウド)	3①		2					1			
ICT演習(応用情報)	3②		2					1			
ICT演習(IoT)	4①		2			1					
ICT演習(マシンラーニング)	4①		2			1					
ICT演習(セキュリティスペシャリスト)	4②		2			1					
ICT演習(組込システム)	4④		2			1					
ICT演習(データベーススペシャリスト)	4④		2			1					
小計(59科目)		-	76	53	0	12	0	4	1	2	1
展開科目	新潟と地域社会	1③④	2								1
	デザイン・シンキング概論	1③④	2					0			
	ソーシャルデザインⅠ	2①②	2								1
	ソーシャルデザインⅡ	3①②	2								1
	ソーシャルデザイン実習【※】	4①②	2					1			1
	デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】	2①	1					0			1
	デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】	3①	1					0			1
	情報産業論	2①②	2				1				
	国際文化と伝統	3①②	2				1				
	社会心理・消費者行動	1③④	2				1				
マーケティング	2①②	2				1					
マーケティング実践	3①②	2						1			
小計(12科目)		-	22	0	0	3	0	1	0	2	3
総合科目	ICT活用総合実習【※】	4通	4			10	0	2	1	2	
小計(1科目)			4	0	0	10	0	2	1	2	
合計(93科目)		-	116	67	3	12	0	4	1	2	17
卒業要件及び履修方法											
基礎科目群の必修科目14単位と選択科目から6単位以上、職業専門科目群の必修科目76単位と選択科目8単位以上、展開科目群22単位、総合科目4単位、あわせて130単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:48単位(年間))											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、改正後大学設置基準(令和4年10月1日施行)の適用以前については、改正前様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「基幹教員等の配置」欄は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等の配置」としてください。
  - ・ 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」としてください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)以外の教員(助手を除く)(改正後大学設置基準の適用以前は兼任、兼担教員)が担当する科目を含む。)を黒字で記入  
その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。  
なお、設置認可時又は届出時、改正前大学設置基準(令和4年10月1日施行前)に基づき、対象学部等を設置している場合、「認可時又は届出時」の「主要授業科目」欄は削除し、「基幹教員等の配置」欄は「専任教員等の配置」、「基幹教員以外の教員(助手を除く)」欄は「兼任・兼担」としてください。その上で、各年度については、「基幹教員(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員」)」数は、認可時又は届出時の「専任教員」数との比較において変更となっている箇所、「基幹教員以外の教員(助手を除く)(大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は「専任教員以外の教員(助手を除く)」)」数は、認可時又は届出時の「兼任・兼担」数との比較において変更となっている箇所を太字の赤字としてください。  
(専任教員から基幹教員に変更したことをもって太字の赤字とする必要はありません。)
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
  - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
  - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【令和2年度】**

・設置認可時附帯事項への対応として、「情報科学基礎」の配当年次を「1①②」から「1③④」に変更。  
・石塚昭彦准教授就任辞退により、「臨地実務実習Ⅰ【臨】」「臨地実務実習Ⅱ【臨】」「ユーザエクスペリエンス」「デザイン・シンキング概論」「デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】」「デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】」「ICT活用総合実習【※】」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。（後任は西川昌宏准教授へ変更予定。教員審査中（令和2年5月））

**【令和3年度】**

・石塚昭彦准教授の後任を西川昌宏准教授へ変更。教員審査済（令和2年5月）。「臨地実務実習Ⅰ【臨】」「臨地実務実習Ⅱ【臨】」「ユーザエクスペリエンス」「デザイン・シンキング概論」「デザイン・シンキング実習Ⅰ【※】」「デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】」「ICT活用総合実習【※】」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更（認可時と同様に戻る）。

**【令和4年度】**

・金宮好和教授の退職、後任は小野山博之准教授となる。（令和4年2月教員審査済）  
「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授12、准教授1」から「教授11、准教授2」に変更。  
「ICT活用総合実習」の専任教員等の配置を「教授10、准教授1」から「教授9、准教授2」に変更。小計も土曜に変更。  
「サイバーフィジカルシステム基礎」「ハードウェア設計」「ロボティクス実習」「ICT演習(IoT)」「ICT演習(組込システム)」の専任教員等の配置を「教授1、准教授0」から「教授0、准教授1」に変更。  
「情報と英語」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。（後任担当教員は採用活動中）  
・羽田野拓兼任講師を令和3年度の「ICT演習(基本情報)(2④)」に配置。（当該科目が2クラス開講となったため）。令和4年度は認可時と同様に戻るため、専任教員等の配置数に変更はなし。  
・岩田章汰兼任講師、杉本裕樹兼任講師を令和3年度の「データサイエンス演習(2②)」に配置。また、令和4年度より瀬谷啓介兼任講師「データサイエンス演習」「データサイエンス実習」を森谷和徳兼任講師・荒川雅広兼任講師・松本侑哉兼任講師に変更。これにより、「データサイエンス演習」「データサイエンス実習」の専任教員等の配置数を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担3」に変更。  
・大野幸夫教授の担当ではなくなったため、「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」の専任教員等の配置を金宮好和教授の退職分を合わせ「教授12」から「教授10」に変更。  
・大野幸夫教授の担当ではなくなったため、「情報と法律」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。また、後任に鬼島佳子兼任講師を配置し、専任教員等の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。  
・荒川善大兼任講師・高瀬章充兼任講師を令和4年度の「マーケティング実践」に配置。これにより、「マーケティング実践」の専任教員等の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担2」に変更。  
・上記変更により職業専門科目の専任教員等配置数（小計）を「教授12」から「教授11」に変更、「准教授1」を「准教授2」へ変更、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担5」へ変更。  
・「現代史と国際関係論」の担当を増田達夫兼任教授から松長昭兼任講師へ変更したことに伴い、基礎科目の兼任・兼担教員数小計を13から14に変更。  
・上記変更により、専任教員等の配置（合計）を「教授12」から「教授11」へ変更、「准教授1」から「准教授2」へ変更、「兼任・兼担17」を「兼任・兼担24」へ変更。

**【令和5年度】**

・大野幸夫教授の退職により、「情報と倫理」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。後任に落合博幸兼任講師を配置し、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」へ変更。  
・未定であった「情報と英語」の後任にカウシャル フウラガラ兼任講師を配置し、「兼任・兼担0」から「兼任・兼担1」に変更。  
・上記変更により「職業専門科目群」の教員数小計を「教授11、兼任・兼担5」から「教授10、兼任・兼担7」に変更。  
・荒川善大兼任講師・高瀬章充兼任講師を令和5年度の「ソーシャルデザイン実習」に配置。これにより、「ソーシャルデザイン実習」の専任教員等の配置を「兼任・兼担0」から「兼任・兼担2」に変更。  
・「IoT演習」と「トップランナー研究」に助手を1名配置し、該当科目の専任教員等の配置を「助手0」から「助手1」へ変更。  
・大和田翔助手の退職により、「ネットワークプログラミング実習【※】」「API実習【※】」「サイバーセキュリティ実習【※】」「クラウドプラットフォーム実習Ⅰ【※】」「クラウドプラットフォーム実習Ⅱ【※】」「ロボティクス実習【※】」「没入型コンピューティング実習【※】」「AI実習【※】」「マシラーニング実習【※】」「データサイエンス実習【※】」「ソーシャルデザイン実習【※】」「デザイン・シンキング実習Ⅱ【※】」について、専任教員等の配置を「助手1」から「助手0」に変更。また、「臨地実務実習Ⅰ【臨】」「臨地実務実習Ⅱ【臨】」「ICT活用総合実習」について、助手の配置を取りやめ「助手2」から「助手0」へ変更。これにより、職業専門科目の専任教員等の配置（小計）について「助手2」から「助手1」に変更。展開科目及び総合科目の専任教員等に配置（小計）について「助手2」から「助手0」に変更。  
・上記変更により、専任教員等の配置（合計）を「教授11」から「教授10」に、「助手2」から「助手1」に、「兼任・兼担24」から「兼任・兼担26」にそれぞれ変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、基幹教員等の配置の変更、主要授業科目の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。  
変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。また、改正後大学設置基準（令和4年10月1日施行）の適用により、専任教員から基幹教員に変更した場合（例：「専任教員 教授1」から「基幹教員 教授1」に変更）や、兼任・兼担教員から基幹教員以外の教員に変更した場合（例：「兼任教員1」から「基幹教員以外の教員1」に変更）については、記入しないでください。  
・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。  
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
56 科目	34 科目	3 科目	93 科目	56 科目 [ 0 ]	34 科目 [ 0 ]	3 科目 [ 0 ]	93 科目 [ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

### (3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
  - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

### (5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{93} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。  
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。



3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	学部増設にともない、共用3,653.80㎡は古町ルネッサンスの複合ビル敷地面積を追い、古町ルネッサンスの借用地1,051㎡(2017.8.21～2040.10.31)2041 賃借期間を1年延長したため(2)			
	校舎敷地	9,210.14㎡	0.00㎡ 3,653.80㎡	0.00㎡	12,863.94㎡				
	運動場用地	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡				
	小 計	9,210.14㎡	0.00㎡ 3,653.80㎡	0.00㎡	12,863.94㎡				
	そ の 他	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡				
	合 計	9,210.14㎡	0.00㎡ 3,653.80㎡	0.00㎡	12,863.94㎡				
(2) 校 舎	専 用	13,803.32㎡ 19,492.94㎡ 17,388.46㎡	0.00㎡	0.00㎡	19,492.94㎡ 17,388.46㎡	校舎面積15,907.80㎡の内、2,104.48㎡は申請外の面積 学部増設にともない、古町ルネッサンス分を追加(3) 古町ルネッサンスの至近の図書館(借用)は216.9㎡(2020.4.1～2045.3.31)(3)			
		<del>(13,803.32㎡)</del> (19,492.94㎡) (17,388.46㎡)	(0.00㎡)	(0.00㎡)	(19,492.94㎡) (17,388.46㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	17 21	演 習 室 11 13	実験実習室 10 17	情報処理学習施設 2室 3 (補助職員0人)	語学学習施設 0室 (補助職員0人)	大学全体 学部増設にともない、古町ルネッサンス分を追加(3)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	情報学部情報学科			20 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	教育研究充実のため追加(3)また、寄贈雑誌受入分の追加(4) 視聴覚資料は、元々導入予定無し(4) 昨年度まで未計上の研究費購入分(研究室保管分)を計上(5) 学術雑誌減1冊は、寄贈雑誌の冊子体発行が終了のため(5) 視聴覚資料増1点は、寄贈による受入分(5) R4年度まで図書冊数には含めていなかったが、3学部で閲覧可能な電子図書を合計119点導入しているため計上(5)	
	情報学部	4,395 [88] <del>(3,675 [62])</del> <del>(4,199 [74])</del> <del>(4,395 [88])</del> (4,716 [92])	36 [16] <del>(4 [0])</del> <del>(30 [15])</del> <del>(36 [16])</del> (35 [16])	15 [15] <del>(1 [1])</del> <del>(17 [16])</del> (15 [15])	0 0 1	2,718 <del>(2,718)</del> (2,874)	0 0		
	計	4,395 [88] <del>(3,675 [62])</del> <del>(4,199 [74])</del> <del>(4,395 [88])</del> (4,716 [92])	36 [16] <del>(4 [0])</del> <del>(30 [15])</del> <del>(36 [16])</del> (35 [16])	15 [15] <del>(1 [1])</del> <del>(17 [16])</del> (15 [15])	0 0 1	2,718 <del>(2,718)</del> (2,874)	0 0		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 学部増設にともない、古町ルネッサンス分を追加(3)		
	557.27㎡ 790.88		169席 209		23,750冊 55,750				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	0.00㎡		-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には、雑誌・電子ジャーナル・データベース等の整備費(運用コスト含む)を含む。 コロナ感染対策によるカメラ購入の為(3)
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	18,109千円	200千円	1,000千円	
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	167,728千円	0千円 696	1,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,280千円 1,580千円	第2年次 1,080千円 1,380千円	第3年次 1,080千円 1,380千円	第4年次 1,080千円 1,380千円	第5年次 -	第6年次 -		
	学生納付金以外の維持方法の概要	雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	開志専門職大学										平均入学生員超過率0.7倍以下の学科数	1	平均入学生員超過率1.15倍以上の学科数	0	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	2	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
	既設学部等の名称	修業年限	入学生員	編入学生員	収容定員	学位又は称号	平均入学生員超過率	平均入学生員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考				
事業創造学部	年	人	年次人	人		倍	倍	倍	倍	年度	年度							
事業創造学部	4	80	-	320	-	0.75	-	0.67	-	-	-							
事業創造学科	4	80	-	320	事業創造学士(専門職)	0.75	-	0.67	-	-	令和2年度	新潟県新潟市中央区紫竹山6-3-5						
情報学部	4	80	-	320	-	0.87	-	0.78	-	-	-							
情報学科	4	80	-	320	情報学士(専門職)	0.87	-	0.78	-	-	令和2年度	新潟県新潟市中央区米山3-1-53						
アニメ・マンガ学部	4	80	-	240	-	0.68	-	0.65	-	-	-							
アニメ・マンガ学科	4	80	-	240	アニメ・マンガ学士(専門職)	0.68	-	0.65	-	-	令和3年度	新潟県新潟市中央区古町通7番町1010番地						
大学全体	-	240	-	880	-	-	-	-	-	-	-							

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。  
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。  
（様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。）
- ・学部・学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。  
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「平均入学定員超過率（控除後）」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。  
なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
  - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。  
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和6年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
  - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。  
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「-」としてください。
  - ・「平均入学定員超過率（控除後含む）」及び「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。  
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<情報学部 情報学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【認可時又は届出時】		【令和2年度】		【令和3年度】		【令和4年度】		【令和5年度】	
専任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名	
専	教授(副学長)(学部長)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)	三上 喜貴 <令和2年4月> 博士(政策・メディア)
		トッランナー研究 臨地実務実習Ⅰ 国際文化と伝統 臨地実務実習Ⅱ		トッランナー研究 臨地実務実習Ⅰ 国際文化と伝統 臨地実務実習Ⅱ		トッランナー研究 臨地実務実習Ⅰ 国際文化と伝統 臨地実務実習Ⅱ		トッランナー研究 臨地実務実習Ⅰ 国際文化と伝統 臨地実務実習Ⅱ	
専	教授	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)	未定	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)	金宮 好和 <令和2年4月> 博士(工学)
		サイバーフィジカルシステム基礎 臨地実務実習Ⅰ ハードウェア設計 臨地実務実習Ⅱ ICT実習(IoT) ロボティクス実習 情報と英語 ICT活用総合実習 ICT実習(組込システム)		サイバーフィジカルシステム基礎 臨地実務実習Ⅰ ハードウェア設計 臨地実務実習Ⅱ ICT実習(IoT) ロボティクス実習 情報と英語 ICT活用総合実習 ICT実習(組込システム)		サイバーフィジカルシステム基礎 臨地実務実習Ⅰ ハードウェア設計 臨地実務実習Ⅱ ICT実習(IoT) ロボティクス実習 情報と英語 ICT活用総合実習 ICT実習(組込システム)		サイバーフィジカルシステム基礎 臨地実務実習Ⅰ ハードウェア設計 臨地実務実習Ⅱ ICT実習(IoT) ロボティクス実習 情報と英語 ICT活用総合実習 ICT実習(組込システム)	
							情報と英語		
							小野山 博之 <令和4年4月> 博士(農学)		小野山 博之 <令和4年4月> 博士(農学)
						専	准教授 サイバーフィジカルシステム基礎 臨地実務実習Ⅰ ハードウェア設計 ICT実習(IoT) ICT実習(組込システム) ロボティクス実習 ICT活用総合実習	専	准教授 サイバーフィジカルシステム基礎 臨地実務実習Ⅰ ハードウェア設計 ICT実習(IoT) ICT実習(組込システム) ロボティクス実習 ICT活用総合実習
専	教授	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)	宮元 万葉美 <令和2年4月> 博士(商学)
		情報リテラシー 社会心理・消費者行動 マーケティング 情報と経営 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		情報リテラシー 社会心理・消費者行動 マーケティング 情報と経営 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		情報リテラシー 社会心理・消費者行動 マーケティング 情報と経営 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		情報リテラシー 社会心理・消費者行動 マーケティング 情報と経営 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習	
専	教授	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士	大野(北嶋) 幸夫 <令和2年4月> 法学修士
		情報と法律 臨地実務実習Ⅰ 情報と倫理 臨地実務実習Ⅱ		情報と法律 臨地実務実習Ⅰ 情報と倫理 臨地実務実習Ⅱ		情報と法律 臨地実務実習Ⅰ 情報と倫理 臨地実務実習Ⅱ		情報と法律 臨地実務実習Ⅰ 情報と倫理 臨地実務実習Ⅱ	
専	教授	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)	後藤(坂本) 幸功 <令和2年4月> 博士(情報科学)
		オペレーティングシステム データ構造とアルゴリズム ネットワーク演習 情報セキュリティ サイバーセキュリティ演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		オペレーティングシステム データ構造とアルゴリズム ネットワーク演習 情報セキュリティ サイバーセキュリティ演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		オペレーティングシステム データ構造とアルゴリズム ネットワーク演習 情報セキュリティ サイバーセキュリティ演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		オペレーティングシステム データ構造とアルゴリズム ネットワーク演習 情報セキュリティ サイバーセキュリティ演習 臨地実務実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習	
専	教授	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士	田代 秀一 <令和2年4月> 工学博士
		情報の基礎 情報産業論 臨地実務実習Ⅰ 現代の科学技術 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		情報の基礎 情報産業論 臨地実務実習Ⅰ 現代の科学技術 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		情報の基礎 情報産業論 臨地実務実習Ⅰ 現代の科学技術 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		情報の基礎 情報産業論 臨地実務実習Ⅰ 現代の科学技術 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習	
専	准教授	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士	石塚 昭彦 <令和2年4月> 工学修士
		デザイン・シンキング概論 デザイン・シンキング実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ ユーザエクスペリエンス デザイン・シンキング実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		デザイン・シンキング概論 デザイン・シンキング実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ ユーザエクスペリエンス デザイン・シンキング実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		デザイン・シンキング概論 デザイン・シンキング実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ ユーザエクスペリエンス デザイン・シンキング実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		デザイン・シンキング概論 デザイン・シンキング実習Ⅰ 臨地実務実習Ⅰ ユーザエクスペリエンス デザイン・シンキング実習Ⅱ 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習	
専	講師	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)	柄沢 直之 <令和2年4月> 修士※(工学)
		オペレーティングシステム システムモデリング プログラミングⅠ データベースの基礎 プログラミングⅡ データベース演習 臨地実務実習Ⅰ ICT実習(応用情報) 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		オペレーティングシステム システムモデリング プログラミングⅠ データベースの基礎 プログラミングⅡ データベース演習 臨地実務実習Ⅰ ICT実習(応用情報) 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		オペレーティングシステム システムモデリング プログラミングⅠ データベースの基礎 プログラミングⅡ データベース演習 臨地実務実習Ⅰ ICT実習(応用情報) 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習		オペレーティングシステム システムモデリング プログラミングⅠ データベースの基礎 プログラミングⅡ データベース演習 臨地実務実習Ⅰ ICT実習(応用情報) 臨地実務実習Ⅱ ICT活用総合実習	



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
実み	講師	江口 将史 <令和2年4月> 修士(コンピュータサイエンス)(米國)	没入型コンピューティング 没入型コンピューティング実習	実み	講師	江口 将史 <令和2年4月> 修士(コンピュータサイエンス)(米國)	没入型コンピューティング 没入型コンピューティング実習	実み	講師	江口 将史 <令和2年4月> 修士(コンピュータサイエンス)(米國)	没入型コンピューティング 没入型コンピューティング実習	実み	講師	江口 将史 <令和2年4月> 修士(コンピュータサイエンス)(米國)	没入型コンピューティング 没入型コンピューティング実習
実み	講師	渋谷 修太 <令和4年4月> 学士(社会工学)	マーケティング実践 ソーシャルデザイン実習	実み	講師	渋谷 修太 <令和4年4月> 学士(社会工学)	マーケティング実践 ソーシャルデザイン実習	実み	講師	渋谷 修太 <令和4年4月> 学士(社会工学)	マーケティング実践 ソーシャルデザイン実習	実み	講師	渋谷 修太 <令和4年4月> 学士(社会工学)	マーケティング実践 ソーシャルデザイン実習
兼任	教授	常木 正則 <令和3年4月> 教育学修士	日本語コミュニケーション	兼任	教授	常木 正則 <令和3年4月> 教育学修士	日本語コミュニケーション	兼任	教授	常木 正則 <令和3年4月> 教育学修士	日本語コミュニケーション	兼任	教授	常木 正則 <令和3年4月> 教育学修士	日本語コミュニケーション
兼任	教授	徳田 賢二 <令和3年4月> 経済学学士	現代経済学	兼任	教授	徳田 賢二 <令和3年4月> 経済学学士	現代経済学	兼任	教授	徳田 賢二 <令和3年4月> 経済学学士	現代経済学	兼任	教授	徳田 賢二 <令和3年4月> 経済学学士	現代経済学
兼任	教授	増田 達夫 <令和2年4月> 学士(政治学)	現代史と国際関係論 国際動態論	兼任	教授	増田 達夫 <令和2年4月> 学士(政治学)	現代史と国際関係論 国際動態論	兼任	教授	増田 達夫 <令和2年4月> 学士(政治学)	現代史と国際関係論 国際動態論	兼任	教授	増田 達夫 <令和2年4月> 学士(政治学)	現代史と国際関係論 国際動態論
兼任	准教授	美甘 哲秀 <令和3年4月> 学士(社会学)	現代産業論 現代企業論	兼任	准教授	美甘 哲秀 <令和3年4月> 学士(社会学)	現代産業論 現代企業論	兼任	准教授	美甘 哲秀 <令和3年4月> 学士(社会学)	現代産業論 現代企業論	兼任	准教授	美甘 哲秀 <令和3年4月> 学士(社会学)	現代産業論 現代企業論
兼任	准教授	渡邊 康英 <令和3年4月> 芸術学修士	ソーシャルデザインⅠ ソーシャルデザインⅡ	兼任	准教授	渡邊 康英 <令和3年4月> 芸術学修士	ソーシャルデザインⅠ ソーシャルデザインⅡ	兼任	准教授	渡邊 康英 <令和3年4月> 芸術学修士	ソーシャルデザインⅠ ソーシャルデザインⅡ	兼任	准教授	渡邊 康英 <令和3年4月> 芸術学修士	ソーシャルデザインⅠ ソーシャルデザインⅡ
兼任	講師	土岐 智賀子 <令和3年4月> 博士(社会学)	現代社会学	兼任	講師	土岐 智賀子 <令和3年4月> 博士(社会学)	現代社会学	兼任	講師	土岐 智賀子 <令和3年4月> 博士(社会学)	現代社会学	兼任	講師	土岐 智賀子 <令和3年4月> 博士(社会学)	現代社会学
兼任	講師	崔 衛華 <令和5年4月> 博士(経済学)	中国語コミュニケーション	兼任	講師	崔 衛華 <令和5年4月> 博士(経済学)	中国語コミュニケーション	兼任	講師	崔 衛華 <令和5年4月> 博士(経済学)	中国語コミュニケーション	兼任	講師	崔 衛華 <令和5年4月> 博士(経済学)	中国語コミュニケーション
兼任	講師	唐木 宏一 <令和2年4月> 博士(商学)	ビジネスモラル	兼任	講師	唐木 宏一 <令和2年4月> 博士(商学)	ビジネスモラル	兼任	講師	唐木 宏一 <令和2年4月> 博士(商学)	ビジネスモラル	兼任	講師	唐木 宏一 <令和2年4月> 博士(商学)	ビジネスモラル

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	藤島 安之 <令和2年4月> 法学士	現代実践法学
		佐藤 晋 <令和2年4月> 法務博士	現代実践法学
兼任	講師	Macavinta, Edgar L <令和2年4月> Bachelor of Science in Elementary Education (比国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黄 仁祥 <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語コミュニケーション
兼任	講師	中谷 昌弘 <令和5年4月> 博士(経済学)	ロシア語コミュニケーション
兼任	講師	北野 奈々子 <令和2年4月> 学士(文学)	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ
兼任	講師	森下 晶代 <令和3年4月> 修士	デザイン・シンキング実習Ⅰ
兼任	講師	宮下 好文 <令和2年4月> 修士(経済学)	新潟と地域社会
兼任	講師	Gregory Dick <令和3年4月> 学士(数学)(経済学) (英国)	英語プレゼンテーション演習Ⅰ 英語プレゼンテーション演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
		佐藤 晋 <令和2年4月> 法務博士	現代実践法学
兼任	講師	Macavinta, Edgar L <令和2年4月> Bachelor of Science in Elementary Education (比国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黄 仁祥 <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語コミュニケーション
兼任	講師	中谷 昌弘 <令和5年4月> 博士(経済学)	ロシア語コミュニケーション
兼任	講師	北野 奈々子 <令和2年4月> 学士(文学)	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ
兼任	講師	森下 晶代 <令和3年4月> 修士	デザイン・シンキング実習Ⅰ
兼任	講師	宮下 好文 <令和2年4月> 修士(経済学)	新潟と地域社会
兼任	講師	Gregory Dick <令和3年4月> 学士(数学)(経済学) (英国)	英語プレゼンテーション演習Ⅰ 英語プレゼンテーション演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
		佐藤 晋 <令和2年4月> 法務博士	現代実践法学
兼任	講師	Macavinta, Edgar L <令和2年4月> Bachelor of Science in Elementary Education (比国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黄 仁祥 <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語コミュニケーション
兼任	講師	中谷 昌弘 <令和5年4月> 博士(経済学)	ロシア語コミュニケーション
兼任	講師	北野 奈々子 <令和2年4月> 学士(文学)	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ
兼任	講師	森下 晶代 <令和3年4月> 修士	デザイン・シンキング実習Ⅰ
兼任	講師	宮下 好文 <令和2年4月> 修士(経済学)	新潟と地域社会
兼任	講師	Gregory Dick <令和3年4月> 学士(数学)(経済学) (英国)	英語プレゼンテーション演習Ⅰ 英語プレゼンテーション演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
		佐藤 晋 <令和2年4月> 法務博士	現代実践法学
兼任	講師	Macavinta, Edgar L <令和2年4月> Bachelor of Science in Elementary Education (比国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黄 仁祥 <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語コミュニケーション
兼任	講師	中谷 昌弘 <令和5年4月> 博士(経済学)	ロシア語コミュニケーション
兼任	講師	北野 奈々子 <令和2年4月> 学士(文学)	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ
兼任	講師	森下 晶代 <令和3年4月> 修士	デザイン・シンキング実習Ⅰ
兼任	講師	宮下 好文 <令和2年4月> 修士(経済学)	新潟と地域社会
兼任	講師	Gregory Dick <令和3年4月> 学士(数学)(経済学) (英国)	英語プレゼンテーション演習Ⅰ 英語プレゼンテーション演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
		佐藤 晋 <令和2年4月> 法務博士	現代実践法学
兼任	講師	Macavinta, Edgar L <令和2年4月> Bachelor of Science in Elementary Education (比国)	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ
兼任	講師	黄 仁祥 <令和5年4月> 修士(文学)	韓国語コミュニケーション
兼任	講師	中谷 昌弘 <令和5年4月> 博士(経済学)	ロシア語コミュニケーション
兼任	講師	北野 奈々子 <令和2年4月> 学士(文学)	キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ
兼任	講師	森下 晶代 <令和3年4月> 修士	デザイン・シンキング実習Ⅰ
兼任	講師	宮下 好文 <令和2年4月> 修士(経済学)	新潟と地域社会
兼任	講師	Gregory Dick <令和3年4月> 学士(数学)(経済学) (英国)	英語プレゼンテーション演習Ⅰ 英語プレゼンテーション演習Ⅱ





(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・石塚昭彦准教授就任辞退により、後任は西川昌宏准教授へ変更予定。教員審査中（令和2年5月）。
- ・藤島安之兼任講師就任辞退。「現代実践法学」の後任は佐藤賢兼任講師が担当。

【令和3年度】

- ・石塚昭彦准教授就任辞退により、後任は西川昌宏准教授へ変更。情報学科で教員審査済（令和2年5月）。
- ・岩田章汰兼任講師、杉本裕樹兼任講師を令和3年度の「データサイエンス演習」に配置。

【令和4年度】

- ・金宮好和教授の退職により、以下科目の後任は小野山博之准教授となる。（令和4年2月教員審査済）  
「臨地実務実習Ⅰ」「臨地実務実習Ⅱ」「サイバーフィジカルシステム基礎」「ハードウェア設計」「ロボティクス実習」「ICT演習（IoT）」「ICT演習（組込システム）」  
なお、「情報と英語」の後任は未定。
- ・増田達夫兼担教授「現代史と国際関係論」を、松長昭兼任講師に変更。
- ・岩田章汰兼任講師、杉本裕樹兼任講師、瀬谷啓介兼任講師担当の「データサイエンス演習」を森谷和徳兼任講師・荒川雅広兼任講師・松本侑哉兼任講師に変更。また、瀬谷啓介兼任講師担当の「データサイエンス実習」を森谷和徳兼任講師・荒川雅広兼任講師・松本侑哉兼任講師に変更。
- ・羽田野拓兼任講師を令和3年度の「ICT演習（基本情報）」に配置。（当該科目が2クラス開講となったため）。令和4年度は認可時と同様に戻り、PANN YU MON助教のみ担当となる。
- ・大野幸夫教授は「情報と倫理」科目担当後のR4年度6月末に退職。「情報と倫理」の後任は未定。
- ・大野幸夫教授の退職により、「情報と法律」を鬼島佳子兼任講師に変更。
- ・荒川善大兼任講師と高瀬章充兼任講師を令和4年度の「マーケティング実践」に配置。

【令和5年度】

- ・大野幸夫教授の退職により、「情報と倫理」を落合博幸兼任講師に変更。
- ・未定であった「情報と英語」の後任としてカウシャル フウラガラ兼任講師を配置。
- ・徳田賢二兼担教授「現代経済学」を、小川顯正兼任講師に変更。
- ・崔衛華兼任講師の「中国語コミュニケーション」を、肖航兼任講師に変更。
- ・瀬谷啓介兼任講師の「データマイニング演習」を、板垣正敏兼任講師に変更。
- ・荒川善大兼任講師と高瀬章充兼任講師を令和5年度の「ソーシャルデザイン実習」に配置。
- ・「データサイエンス演習」「データサイエンス実習」について、令和5年度より荒川雅広兼任講師から黒瀬雄大兼任講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要な研究業績を有する実務家教員数
50 名	25 名	21 名	11 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一イ(2)及び第四十二条の六、専門職大学設置基準別表第一イ及び第三十六条、専門職短期大学設置基準別表第一イ及び第三十三条により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【専門職大学等】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
12	1	4	1	18	3	10	2	4	1	17	1
(12)	(1)	(3)	(1)	(17)	(3)						
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		
9	2	7	2			7	2	8	2		
(8)	(1)	(7)	(1)								
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
10	2	4	1	17	1	12	1	4	1	18	3
[ Δ2 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ Δ1 ]	[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数			専任教員数(専)	専任教員数(実専)	専任教員数(実(研))	みなし専任教員数		
7	2	8	2			8	2	8	2		
[ Δ2 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]			[ Δ1 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を要する学部等であり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)  
 ・ 「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)  
 ・ 「実専」は実務家教員、「実(研)」は研究能力を併せ有する実務家教員を計上してください。  
 なお、みなし専任教員(実み)がいる場合は、必要に応じて各項目の教員数に計上してください。  
 ・ 「みなし専任教員数」には、「実専」に計上している実務家教員数のうち、みなし専任教員の教員数を計上してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(C))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65(教授・准教授・講師)	3	5
60(助教・助手)		

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二桁書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{18} = \boxed{94.44} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{17} = \boxed{17.64} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{1}{3} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	准教授	石塚 昭彦	R元. 12	必修	デザイン・シンキング概論	①	R元. 12 家庭の事情のため就任辞退(2)						
				必修	デザイン・シンキング実習Ⅰ	①							
				必修	臨地実務実習Ⅰ	①							
				必修	ユーザエクスペリエンス	①							
				必修	デザイン・シンキング実習Ⅱ	①							
				必修	臨地実務実習Ⅱ	①							
					ICT活用総合実習	①							
合計(D)					後任補充状況の集計(E)								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)						
1	人	必修	7	科目	必修	7	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	7	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	金宮 和好	R4. 3	必修	サイバーフィジカルシステム基礎	①	R4. 3 家庭の事情のため退職(4)						
				必修	臨地実務実習Ⅰ	①							
				選択	ハードウェア設計	①							
				必修	臨地実務実習Ⅱ	①							
				選択	ICT演習(10T)	①							
				選択	ロボティクス実習	①							
				選択	情報と英語	②							
				必修	ICT活用総合実習	①							
				選択	ICT演習(組込システム)	①							
2	教授	大野幸夫	R4. 6	必修	情報と法律	②	R4. 6 一身上の都合により退職(5)						
				必修	臨地実務実習Ⅰ	①							
				必修	情報と倫理	②							
				必修	臨地実務実習Ⅱ	①							
合計(F)					後任補充状況の集計(G)								
辞任した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)						
2	人	必修	10	科目	必修	8	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	8	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について**、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D) + (F)					後任補充状況の集計(E) + (G)								
辞任等した教員数		担当科目数の合計(a) + (b) + (c)			①の合計数(a)	②の合計数(b)	③の合計数(c)						
3	人	必修	17	科目	必修	15	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	0	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	15	科目	計	3	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計}(D)+(F)}{(2)-②\text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{18} = \boxed{16.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。  
 ・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任担当教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

**石塚昭彦准教授**  
 就任辞退は、「家庭の事情」であり、大学としてはやむを得ないと判断している。当該准教授の担当科目は、全科目後任教員の西川昌宏准教授にて担当。教員審査済(令和2年5月)。  
 学生へは、シラバスおよびカリキュラムにて説明し周知した。

**金宮好和教授**  
 退職は、「家庭の事情」であり、大学としてはやむを得ないと判断している。当該教授の担当科目は、1科目を除き後任教員の小野山博之准教授にて担当、1科目は兼任にて担当する。  
 学生へは、シラバスおよびカリキュラムにて説明し周知した。

**大野幸夫教授**  
 退職は、「一身上の都合」であり、大学としてはやむを得ないと判断している。当該教授の担当科目は、兼任にて担当する。  
 学生へは、シラバスおよびカリキュラムにて説明し周知した。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の中心として広く知識を受けるとともに深く専門の学芸を教授研究するという大学の目的、さらに専門性が求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開するという専門職大学の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>&lt;設置計画の履行状況&gt;                      ・本学情報学部の教育研究上の目的は、「情報分野の専門的な知識と技術及び技能の定着と実践力の深化を図り、実社会や職業とのかかわりを通して、高い職業意識や職業観と規範意識、人間関係力に根ざした実践力を高めるとともに、課題を探求し解決する基礎的な能力を養い、情報技術を生活様式や様々なサービスなどの充実と向上に活用できる創造的な能力を育てる」こととしている。開学時から充実した教育研究活動を行うとともに、以下のようにその水準の一層の向上に努める。(2)                      ・開学後、最初の礎を築く完成年度を迎える直前期となり、以下のような取組を行っている。                      →自己点検・評価報告書の作成                      →将来計画[Kaishi Vision 2032]の策定                      →学外評価委員会の設立                      ※令和4年度2回開催                      ※今後の外部認証評価受審に向け、自己点検・評価報告書に対し外部評価を実施する機関として設置。                      当該委員会による外部評価を実施し、本学の自己点検・評価に関する「外部評価報告書」が示された。(5)</p>	<p>完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」。</p> <p>履行中</p>
		<p>・教育課程については、助言事項に基づく「情報科学基礎」の配当年次を変更した以外は、設置計画からの変更はないが、授業開始が当初予定より遅れ、かつオンライン授業での実施となった。事前にガイダンス授業を行い、学生のネット環境を確認するなどの対策を行い授業を開始している。(2)                      ・また、オンライン授業の2週目には、全学生対象に担当教員がWeb面談を実施し、学習面、生活面の両面において支援を行っている。(2)                      ・授業の開始が2020年5月11日となり開始時期が遅くなったことにより、学事歴を見直すことで、すべての教育課程の履修を可能にするよう調整を行った。(3)                      ・臨地実務実習について、受入れ先企業との相談を継続して行い、続くコロナ禍に対応するため、事業所における対面式の実習とオンラインによるグループワークを併用して実施した。(4)                      ・第1期生卒業生輩出に向け、卒業に向けた教育研究の展開やキャリアセンターを通じたの教職共同でのキャリア支援の取組を行っている。(5)</p>	<p>・2022年度の臨地実務実習について、コロナ禍が続くことを想定しながら、できる限り対面にて行えるよう、教育の質を確保すべく、各受入れ企業と相談体制を継続し、臨地実務実習を行っていくことを検討している。                      ・完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」(5)</p> <p>履行中</p>

<p>・教育環境の整備は、教室並びに図書室、研究室を開学前にすべて整えている。教員には個別の研究室を設けており、また米山キャンパス7階にはIoT実習ができる機材を導入したLABを整備し、1階には「開志未来創造センター」を設置し、教育研究活動の一助とする。(2)</p> <p>・IoT実習ができる機材を導入したKAISHI LAB並びに開志未来創造研究センターは、教員同士、教員と学生、学生同士が共同で研究できる環境として運用体制を整備している。(3)</p> <p>・「実践力」と「創造力」を伸ばすカリキュラムによる専門職人材の育成に向け、カリキュラムの見直しを図り、開学5年目以降に導入予定。(5)</p>	<p>履行中</p>	<p>・コロナ禍が続き、産学連携活動が難しい状況にあるものの、将来的には共同開発の拠点として「開志未来創造研究センター」「KAISHI LAB」を活用する計画策定を進めていく。</p> <p>・完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」(5)</p>
<p>・委員会・諸規程の整備についても、専門職大学の目的に照らし、充実した教育研究活動とその水準の一層の向上を図るために、各種委員会の設置ならびに諸規程の整備を行った。(2)</p> <p>・当初計画の委員会の他に、学部別に「学務委員会」を設置し、臨地実務実習に関して検討するための委員会を設置した。臨地実務実習の計画、実行、評価、見直しをすることで臨地実務実習の教育効果を高めるための施策推進に努めている。(3)</p> <p>・全学組織である教務委員会と学生委員会に、各学部別の部会を設定し、学部内の課題に対して迅速に協議・対応できる運営体制の整備を行った。(4)</p> <p>・学生満足度評価向上のために、自己点検・評価報告書や学生アンケートを参考に、改善活動を行うとともに、今後、障害のある学生に対する支援として合理的配慮ガイドラインの作成にも着手予定。(5)</p>	<p>履行中</p>	<p>・2022年度より学内に「内部質保証機構」を設置し、機構のもとに自己点検・評価委員会、各専門部会、内部質保証推進室を置くことで、自己点検・評価結果をふまえた改善を適切に実施する体制を整備する。</p> <p>・完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」(5)</p>

<p>認可時 (令和元年)</p>		<p>【認可】遵守事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟県の国公立・私立大学で組織する「高等教育コンソーシアムにいがた」に加盟し、新潟県内初の専門職大学として行う教育研究活動を通して、地域に貢献するとともに教育研究活動の質を向上させるよう努める。(2)</li> <li>・開学以降、科研費を含む外部研究資金の獲得と全学的な研究力の向上に努めた。科研費は継続課題含め7件の配分を受け、専門職大学のなかでは獲得件数1位を達成することができた。科研費以外にも文化庁や農林水産省といった省庁等競争的研究費を獲得し、また公益財団法人からの研究助成を受け研究活動の質向上に資した。(5)</li> <li>・新たな価値の創造を先導する人材を育成することにより、地域、日本、世界の発展に寄与することを本学の目的としているが、それを実現するために、「国連アカデミック・インパクト」への加盟を検討している。(2)</li> <li>・2020年8月24日に「国連アカデミック・インパクト」への加盟が認められた。(3)</li> <li>・開学以降、各団体や地方自治体との包括連携協定の締結が進み、今後より具体的な取組の効果が期待できる。(5)</li> </ul>	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」。</li> </ul>
<p>認可時 (令和元年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。(情報学部 情報学科)</li> </ul>	<p>【認可】遵守事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本法人の教育職員就業規則では定年65歳とされているが、大学新設時は、開設年度から完成年度までの間を大学としての教育研究体制の基盤を形成する期間として位置付けており、豊富な知識と経験を活かし教育研究水準の維持向上を図るために経験豊富な教員を多く配置した。その結果、情報学部は完成年度において定年年齢を超える教員が7名となっており、定年延長の特例を設けている。</li> <li>あわせて完成年度以降は教育研究の継続および教育研究の質の向上を維持するために、新規採用により適正な年齢構成、職位構成で教員組織が保持できるように努める。(2)</li> <li>・また、完成年度における定年退職を見据えて、年次進行中における若手教員の前倒し採用の計画を策定し、当該計画に基づく年次進行中における若手教員の確保に向けた継続的な採用活動とともに、研究業績や能力を高めた教員の内部昇格により教員配置の適正化に努める。(2)</li> <li>・助教職の個人研究費増額を行い、研究支援体制の整備に努めている。(3)</li> <li>・若手教員の採用を行い令和4年4月1日に新任准教授が1名着任。引き続き完成年度以降の採用計画を立案中。(4)</li> </ul>	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」。</li> </ul>

認可時 (令和元年)	・情報科学基礎の講義内容に含まれる情報理論は、線形代数や確率論を事前に学修しておくことで教育効果が高まるため、これらの科目の開講時期について検討することが望ましい。 (情報学部 情報学科) (助言事項)	【認可】遵守事項	「情報科学基礎」の開講前に「線形代数」が修了するよう、「情報科学基礎」の配当年次を改めた。	履行済	
設置計画履行状況調査結果 (令和2年)	該当なし				
設置計画履行状況調査結果 (令和3年)	定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。	【AC】指摘事項(改善)	・若手教員の採用を行い令和4年4月1日に新任准教授が1名着任。引続き完成年度以降の採用計画を立案中。(4) ・従来、教員の任期を1年としていたが、若手教員採用に向け、雇用の安定性を高め、優秀な人材の維持および確保を目的に、教員の任期に関する制度・規程の改正を実施(5) ・完成年度以降の採用・教員配置計画を検討・策定し、今後の契約について教員と面談実施、不足する分野についての公募活動に入っている。(5)	履行中	完成年度までの設置計画の履行に対する遵守事項であることから、左記のように「履行途中」。
設置計画履行状況調査結果 (令和4年)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。



## 7 その他全般的事項

<情報学部 情報学科>

### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① FD・SD委員会の設置と実施状況</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SD委員会設置（令和2年4月）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>令和4年 5月11日</td><td>令和4年度第 2回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年 6月 1日</td><td>令和4年度第 3回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年 7月 6日</td><td>令和4年度第 4回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年 8月 3日</td><td>令和4年度第 5回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年 9月 7日</td><td>令和4年度第 6回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年10月 5日</td><td>令和4年度第 7回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年11月 2日</td><td>令和4年度第 8回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和4年12月 7日</td><td>令和4年度第 9回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和5年 1月11日</td><td>令和4年度第10回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和5年 2月 1日</td><td>令和4年度第11回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和5年 3月 1日</td><td>令和4年度第12回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td>令和5年 4月11日</td><td>令和5年度第 1回</td><td>参加率 100%</td></tr> <tr><td colspan="2"></td><td>計 12回開催</td></tr> </tbody> </table> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(1) 教育研究活動の改善に関する立案・実施に関する事項</p> <p>(2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項</p> <p>(3) 学生による授業評価の計画・実施及び分析に関する事項</p> <p>(4) 教育研究活動の改善に関する情報の収集と提供に関する事項</p> <p>(5) 教育研究活動の運営に必要な知識及び技能の習得に関する立案・実施に関する事項</p> <p>(6) 教育研究活動の運営に必要な知識及び技能の習得に関する情報の収集と提供に関する事項</p> <p>(7) その他教育研究活動の改善及び教育研究活動の適切かつ効果的な運営に関する事項</p>	令和4年 5月11日	令和4年度第 2回	参加率 100%	令和4年 6月 1日	令和4年度第 3回	参加率 100%	令和4年 7月 6日	令和4年度第 4回	参加率 100%	令和4年 8月 3日	令和4年度第 5回	参加率 100%	令和4年 9月 7日	令和4年度第 6回	参加率 100%	令和4年10月 5日	令和4年度第 7回	参加率 100%	令和4年11月 2日	令和4年度第 8回	参加率 100%	令和4年12月 7日	令和4年度第 9回	参加率 100%	令和5年 1月11日	令和4年度第10回	参加率 100%	令和5年 2月 1日	令和4年度第11回	参加率 100%	令和5年 3月 1日	令和4年度第12回	参加率 100%	令和5年 4月11日	令和5年度第 1回	参加率 100%			計 12回開催	<p>② 研修の実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動に関する研修会（令和4年5月18日）</li> <li>・開志専門職大学事務局職員としての働き方に関する研修会（令和4年6月15日）</li> <li>・アクティブラーニングに関する研修会（令和4年9月21日）</li> <li>・分野別認証評価に関する研修会（令和4年10月19日）</li> <li>・著作権に関する研修会（令和4年11月23日）</li> <li>・学生フォローに関する研修会（令和5年3月15日）</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <p>コロナ禍のため、研修会の講師並びに対象となる教職員はMicrosoft TeamsまたはZOOMによるオンラインでの実施を原則とした。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <table border="1"> <tbody> <tr><td>・研究活動に関する研修会（令和4年5月18日）</td><td>88.1%</td></tr> <tr><td>・開志専門職大学事務局職員としての働き方に関する研修会（令和4年6月15日）</td><td>89.1%</td></tr> <tr><td>・アクティブラーニングに関する研修会（令和4年9月21日）</td><td>70.0%</td></tr> <tr><td>・分野別認証評価に関する研修会（令和4年10月19日）</td><td>61.1%</td></tr> <tr><td>・著作権に関する研修会（令和4年11月23日）</td><td>67.2%</td></tr> <tr><td>・学生フォローに関する研修会（令和5年3月15日）</td><td>65.3%</td></tr> </tbody> </table> <p>d 研修の総括と授業等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動や認証評価といった研修を行うことで、継続して大学運営を行うための基盤づくりができた。</li> <li>・アクティブラーニングと著作権に関する研修により、オンライン授業やグループワークに対する知識を得る機会となった。</li> <li>・いちグループ企業の職員であることに併せ、教職協働のための大学職員としての心構えや役割について改めて確認する機会となった。</li> </ul> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クォーター制のため、学期ごとに年4回実施（令和4年6月、8月、11月、令和5年1月）</li> </ul> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内ポータルサイトにて、全科目の結果を学生および教職員に公開している。</li> </ul>	・研究活動に関する研修会（令和4年5月18日）	88.1%	・開志専門職大学事務局職員としての働き方に関する研修会（令和4年6月15日）	89.1%	・アクティブラーニングに関する研修会（令和4年9月21日）	70.0%	・分野別認証評価に関する研修会（令和4年10月19日）	61.1%	・著作権に関する研修会（令和4年11月23日）	67.2%	・学生フォローに関する研修会（令和5年3月15日）	65.3%
令和4年 5月11日	令和4年度第 2回	参加率 100%																																																		
令和4年 6月 1日	令和4年度第 3回	参加率 100%																																																		
令和4年 7月 6日	令和4年度第 4回	参加率 100%																																																		
令和4年 8月 3日	令和4年度第 5回	参加率 100%																																																		
令和4年 9月 7日	令和4年度第 6回	参加率 100%																																																		
令和4年10月 5日	令和4年度第 7回	参加率 100%																																																		
令和4年11月 2日	令和4年度第 8回	参加率 100%																																																		
令和4年12月 7日	令和4年度第 9回	参加率 100%																																																		
令和5年 1月11日	令和4年度第10回	参加率 100%																																																		
令和5年 2月 1日	令和4年度第11回	参加率 100%																																																		
令和5年 3月 1日	令和4年度第12回	参加率 100%																																																		
令和5年 4月11日	令和5年度第 1回	参加率 100%																																																		
		計 12回開催																																																		
・研究活動に関する研修会（令和4年5月18日）	88.1%																																																			
・開志専門職大学事務局職員としての働き方に関する研修会（令和4年6月15日）	89.1%																																																			
・アクティブラーニングに関する研修会（令和4年9月21日）	70.0%																																																			
・分野別認証評価に関する研修会（令和4年10月19日）	61.1%																																																			
・著作権に関する研修会（令和4年11月23日）	67.2%																																																			
・学生フォローに関する研修会（令和5年3月15日）	65.3%																																																			

(注) ・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

- ・設置状況：設置済み
- ・構成員の交代：落田章人（新潟市総務部デジタル行政推進課課長後任として、箕打正人が就任）
- ・構成員の退任：なし

委員長	三上 喜貴	構成員区分：教職員（開志専門職大学副学長、情報学部長 教授）
副委員長	田代 秀一	構成員区分：教職員（開志専門職大学情報学部 教授）
委員	箕打 正人	構成員区分：地域（新潟市総務部デジタル行政推進課 課長）
委員	木田 徳彦	構成員区分：職業（一般社団法人ソフトウェア協会理事 人材委員会副委員長、株式会社インフォテック・サーフ 代表取締役）
委員	黒田 達也	構成員区分：協力（新潟人工知能研究所株式会社 代表取締役社長）
委員	中野 敬介	構成員区分：職業（新潟県ICT推進協議会 会長、新潟大学 工学部 教授）
委員	原田 博植	構成員区分：協力（株式会社グラフ 代表取締役社長）
委員	山田 久志	構成員区分：職業（一般社団法人情報サービス産業協会 理事、株式会社ジェイマックソフト 代表取締役社長）

(目的)

第1条 この規程は、産業界及び地域社会との連携により、専門分野の動向、要望を教育課程に取り入れ、実践的かつ専門的な知識・技能を持った専門職人材育成教育を実施するため、教育課程を編制し、及び円滑かつ効果的に実施することを目的とした協議会（以下、教育課程連携協議会と称する）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織・任期)

第2条 学長は、教育課程連携協議会を設置し、意見を聴取し、教育課程の編成において意見を勘案するものとする。委員の任期については2年間とする。但し、再任を妨げないものとする。

(協議会の構成)

第3条 教育課程連携協議会の構成員は、次のとおりとする。

- (1) 学長が指名する教員その他の職員
- (2) 本学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者 による団体のうち、広範囲の地域で活動するもの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの
- (3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者
- (4) 臨地実務実習その他の授業科目の開設又は授業の実施において本学と協力する事業者
- (5) その他、教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めた者

2 教育課程連携協議会の構成員のうち、第1項の第1号に定めるものから1名を委員長として学長が指名する。

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- ・2022年9月9日（金）
  - ・2023年3月16日（木）

c 委員会の審議事項等

第4条 教育課程連携協議会は、各学部に関係する業界動向、最新の知識、手法等を考察し、それを踏まえて次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとする。

開志専門職大学について

- (1) 開志専門職大学の概要と概況

情報学部について

- (1) 2022年度の学部運営について
- (2) 2022年度の臨地実務実習について
- (3) 2022年度の就職状況について
- (4) 情報学部カリキュラム改訂について

d その他

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項については、学長が決定する。

② 審議状況

a 審議した内容

- ・今年度の退学者状況について  
退学者への対応は適切であったか。どのような対応が望まれるか。
- ・臨地実務実習における実習先との労働契約について  
「有償」による臨地実務実習での有益性と問題点について。
- ・就職について  
就職内定率と臨地実務実習との関係について。

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

- ・退学者を増やさないための早目の動機づけ及び学生フォロー体制の見直し。
- ・臨地実務実習先との綿密な連携（状況確認）。
- ・養成する人材像について各委員（各業界）から意見を聴取。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

- ・入学前課題の見直し。スタディスキル講習の実施。
- ・幅広い業種への臨地実務実習先の開拓。
- ・養成する人材像について各委員から聴取した内容をカリキュラム改訂に反映。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
2021年度の活動を踏まえ、設置の趣旨・目的の達成とそれに伴う改善のPDCAサイクルと強化するために、新たに内部質保証機構を設置し運用を開始した。これまで総務会配下の自己点検・評価委員会を内部質保証機構内に移し、自己点検および評価の体制を固め、まずは開学2年目における設置の趣旨・目的が達成されていることを自己点検した。その結果として「2021年度自己点検・評価報告書」を作成した。また、併せて学外有識者からなる学外評価委員会を新たに設け、学外評価委員会による「2021年度自己点検・評価報告書」の外部評価を受けた。その結果を「2021年度自己点検・評価報告書」と合わせ「2021年度開志専門職大学 自己点検・評価に関する外部評価報告書」として、ホームページに公開した(<https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>)。  
自己点検・評価報告書と学外評価報告書の結果から、設置申請時に記載した内容に対する改善点や今後の課題を明確にすることができた。  
また、設置申請書に記載した内容についてより充実した履行を行うために、各部署において改善すべき点を全体的に把握でき、今後の大学運営に反映するための方策を検討できた。  
これらの結果をもって、今後も設置計画を確実に履行しつつ、専門職大学の特性を活かし、設置の趣旨・目的を達成すべく大学運営を行う。さらに、2023年度は完成年度であること、2024年度に受信する分野別認証評価の審査対象年度であることを踏まえ、一層の自己点検を実施する予定である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期  
令和4年11月

b 公表方法  
大学ホームページ上に公表

③ 認証評価を受ける計画  
(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)  
内部質保証機構(学内組織)において、令和6年度に分野別認証評価を受審する認証評価機関を調査・検討中である。  
内部質保証機構(学内組織)において、令和8年度に機関別認証評価を受審する認証評価機関を調査・検討中である。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和5年度)

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ a で「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2~3ヶ月以内 ・  公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他( ) ]

≪ a で公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 開志専門職大学 FD・SD委員会規程

### (設置)

第1条 開志専門職大学にFD・SD委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (目的)

第2条 委員会は、教育研究活動の内容及び方法の改善・向上及び教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図り教育・研究の発展に寄与するため、必要な事項を調査、審議または処理することを目的とする。

### (所掌事項)

第3条 委員会の所掌事項は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 教育研究活動の改善に関する立案・実施に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) 学生による授業評価の計画・実施及び分析に関する事項
- (4) 教育研究活動の改善に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 教育研究活動の運営に必要な知識及び技能の習得に関する立案・実施に関する事項
- (6) 教育研究活動の運営に必要な知識及び技能の習得に関する情報の収集と提供に関する事項
- (7) その他教育研究活動の改善及び教育研究活動の適切かつ効果的な運営に関する事項

### (組織)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教員 3名
- (2) 事務局学務課長 1名
- (3) 委員会が必要と認めた教員及び事務職員 若干名

### (任期)

第5条 委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長及び副委員長)

第6条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、学長が指名する。
- 3 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

- 4 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 5 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。

(会 議)

第7条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 議事の議決は、出席した委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明または意見を聞くことができる。

(専門部会)

第9条 委員会は、必要があると認めるときは、委員会の中に専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会の部会長は、委員のうちから委員長が委嘱する。
- 3 専門部会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(報 告)

第10条 委員長は、委員会の審議が終了したときは、その結果を教授会に報告する。

- 2 委員長は、学則第10条で定める事項の審議結果の決定にあたっては、教授会の議を経て学長の承認を得なければならない。
- 3 委員長は、前項の事項のほか、審議結果について教授会に意見を求めることができる。

(事 務)

第11条 委員会の事務は、事務局学務課が行う。

(改 廃)

第12条 この規程の改廃は、総務会の議を経て学長が行う。

(補 則)

第13条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、2020年4月1日から施行する

2 この規程は、2022年4月1日から施行する。

別添資料②

(情報学部) 教育課程連携協議会構成員名簿

(令和5年5月1日時点)

		令和5年度	(五十音順・敬称略)	
番号	役職	氏名	構成員区分	現所属および役職名
1	委員長	三上 喜貴	教職員	開志専門職大学副学長 情報学部学部長 教授
2	副委員長	田代 秀一	教職員	開志専門職大学情報学部 教授
3	委員	木田 徳彦	職業	一般社団法人ソフトウェア協会理事 人材委員会副委員長 株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役
4	委員	黒田 達也	協力	新潟人工知能研究所株式会社 代表取締役長
5	委員	中野 敬介	職業	新潟県ICT推進協議会 会長 新潟大学 工学部 教授
6	委員	箕打 正人	地域	新潟市総務部デジタル行政推進課 課長
7	委員	原田 博植	協力	株式会社グラフ 代表取締役社長
8	委員	山田 久志	職業	一般社団法人情報サービス産業協会 理事 株式会社ジェイマックソフト 代表取締役社長

【設置計画履行状況報告書・補足説明資料(専門職大学等)】

(共通留意事項)

○「認可(設置)時の計画」には認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」に記載した計画を記入ください。

○認可申請書に記載がなければ「記載なし」と記入ください。

○「履行状況」には報告時点で取り組んでいる事項(準備状況含む)を記入ください。

その際、「認可(設置)時の計画」から変更している場合は、変更した理由を具体的に記入ください。

① 入学者選抜

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>・ 多様性に配慮した選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>1 一般選抜試験</p> <p>入学志願者の学習能力をできる限り合理的に判定することができるように出題方針を立てるとともに、学力試験に合格した者に対して、面接試験を課すことにより、入学者の受入方針に基づく、学ぶ意欲や関心、適性等を適切に判断することとしている。 定員枠は10名。情報学部では必修科目1科目(数学Ⅰ・A)と選択科目(国語、英語、世界史、日本史、地理、現代社会、簿記会計)を課す。</p> <p>2 アドミッション・オフィス選抜</p> <p>詳細な書類審査と時間を掛けた丁寧な面接を組み合わせることにより、入学志願者の学部教育を受けるための適性或学部教育に対する学習意欲、目的意識等を総合的に判定する。 定員枠は40名とし、受験する者に対して、調査票、自己推薦書、志望動機書、学修計画書を求めることとする。</p> <p>3 指定校推薦及び公募推薦選抜</p> <p>指定校推薦の定員枠は20名、公募推薦の定員枠は10名とする。 特別選抜試験における指定校推薦選抜及び公募推薦選抜は、出身高等学校長の推薦に基づき、学力試験を免除し、調査書を主な資料として判定することとし、学部において求める学生像と入学志願者に求める能力や適性等に基づき、調査書、面接試験、論文試験を課すことにより、入学志願者の能力、適性、意欲、関心等を多方面かつ総合的に評価する。</p> <p>・ 社会人選抜の実施有無、実施方法(定員枠、入試科目)</p> <p>多様性に配慮した入学者選抜の観点から、社会人についても入学者の対象として受入れることとしているが、完成年度までの間は社会人の定員枠の設定や社会人に特化した入学者選抜の設定は行わず、一般選抜試験の定員枠の中で、一般選抜試験の選抜方法により受入れることとする。 社会人の定員枠の設定や社会人に特化した入学者選抜を実施する場合には実務の経験を有する者を受入れる場合の当該実務経験を通じた能力の修得を勘案した既修得単位の設定や一定期間を修業年限に通算できる仕組みの導入など、社会人の入学者選抜の制度について明確にする必要がある。 社会人の定員枠の設定や社会人に特化した入学者選抜の実施については、開学後、教育内容や教育環境の基盤形成と併せて、地域社会のニーズや入学対象とする社会人や留学生の動向等を見極めつつ、継続的かつ安定的に社会人や留学生を受入れるための教育環境や教育体制の整備について検討する。</p>	<p>※入学者選抜において実際に各項目に該当する選抜を実施していればの結果と受験者や合格者の内訳を差支えない範囲で記入ください。</p> <p>一般選抜試験</p> <p>＜一般選抜 個別試験型 内訳＞ 情報学部 : 受験者19人・合格者13人 ＜一般選抜 共通テスト利用型 内訳＞ 情報学部 : 受験者13人・合格者7人</p> <p>【認可(設置)時の計画からの変更事項・理由】 より多様な入学志願者の受け入れを目的とし、共通テスト利用型入試を2021年度より導入。一般選抜の定員枠は、個別試験型で10名・共通テスト利用型で5名に変更。</p> <p>特別選抜試験</p> <p>＜総合型選抜 内訳＞ 情報学部 : 受験者19人・合格者18人</p> <p>【認可(設置)時の計画からの変更事項・理由】 他選抜区分の見直しに伴い、定員枠を35名に変更。</p> <p>指定校推薦及び公募推薦選抜</p> <p>＜学校推薦型選抜 内訳＞ ＜指定校型 内訳＞ 情報学部 : 受験者21人・合格者21人 ＜公募型 内訳＞ 情報学部 : 受験者1人・合格者1人</p> <p>実施なし 完成年度以降、社会人の定員枠の設定や社会人に特化した入学者選抜の実施する場合には、実務の経験を有する者を受入れる場合の当該実務経験を通じた能力を勘案した既修得単位の設定や一定期間を修業年限に通算できる仕組みの導入を行う予定である。 現在、教務委員会の担当教員と事務局にて、当該実務経験を通じた能力を勘案した既修得単位の設定について、基準等の検討を始めたところである。</p>



② 臨地実務実習

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>・ 実習先の確保の状況                      実習先の確保の状況としては、各学科80名の入学定員に対して、複数の実習施設を確保し、受入予定学生数も入学定員を上回る人数とし、すべての学生が臨地実務実習を行える必要な実習施設を確保した。                      情報学科 27施設</p> <p>・ 実習水準の確保の方策                      専門分野の実務を経験することで実践力を強化し、専門性を高めることのみでなく、臨地実務実習の全体を通して、主体性や課題発見力、発信力を養うこともその目的として捉える。                      教育成果をあげるため、実務担当教員と実習施設の管理責任者及び直接指導に当たる実習指導者として、実習内容について十分協議のうえ臨地実務実習を実施することとする。また、学内において、実習前に実習に臨むための心構え、実習の目的、求められる成果など十分な事前指導及び事後評価を行う体制を整備することで、実習水準の確保を目指す。</p> <p>・ 実習先との連携体制                      臨地実務実習の実施において、本学と実習施設との信頼関係が不可欠であり、信頼関係が深いほど教育効果は高まることが期待される。実習施設に対して学生の受入れを依頼するにあたり、次の点について十分な配慮を行う。                      ・実習の日程や人員と内容について、事前に連絡し、実習施設の実習指導者の理解を得たうえで、実習施設の長に対して正式な依頼文書を提出する。                      ・学生に対する十分な事前指導を行うとともに、前年度の実習時において要望が出された事項については必ず対応する。                      ・実習期間中は、実習指導者と日程を調整したうえで実習先を訪問し、実習の実施状況を確認するとともに、意見交換をはじめとする必要な調整を行うこととする。                      ・実習担当教員と実習指導者による協議の場を設け、実習体制や実習内容の整備に向けての意見交換などを行うこととする。                      ・実習施設の実習指導者の研究や研修の支援として、外部講師を招聘した講演会への参加や、図書館の利用を求めるなど、実習施設の発展と向上に協力する。</p> <p>・ 連携実務演習等                      記載なし。</p>	<p>※実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>令和5年度情報学科の実習先として以下7件の企業を追加。実習施設数を「48施設」から「55施設」へ変更。                      株式会社ドコモビジネスソリューションズ                      株式会社ナカノアイシステム                      株式会社ヒューマンリソース                      株式会社西通                      レイシスソフトウェアサービス株式会社                      Zeit株式会社                      株式会社システムコンシェルジュ</p> <p>情報学科では、第3期からの実習に向けて2020年10月より、実習先企業に担当教員を配置した。なお、担当教員1人に対し、割り当てられた実習先は1～3社である。実習先企業担当者、担当教員、事務局にて、協議を行い、以下の事項について、担当科目の学習目標と合致していること、および評価について、確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業情報</li> <li>・ 実習の基本的条件</li> <li>・ 実習の内容</li> <li>・ 実習の期間</li> <li>・ 実習の場所</li> <li>・ 評価方法</li> </ul> <p>情報学科では、実習後以下内容にて「情報学部臨地実務実習シンポジウム」を開催した。                      開催日：2023年2月16日(木)                      会場：新潟県民会館 大ホール/ギャラリー                      参加者：情報学科1・2・3年生、情報学科教職員、実習先企業の代表者・指導責任者、次年度協力予定の企業他                      内容：                      ・ 基調報告『2022年度開志専門職大学情報学部臨地実務実習の狙いと成果』                      ・ パネルディスカッション『臨地実務実習の意義と課題』                      ・ ポスターセッション(学生による45社各社毎の実習総括ポスター展示と説明)                      目的：                      ◆1年生に対し、「臨地実務実習I」の目的、概要、及び、2年生の実習成果等を理解し、次年度に履修する「臨地実務実習I」に対する心構え、目標を持つきっかけとする。                      ◆2年生、3年生に対し、「臨地実務実習I・II」での成果を振り返り、もう一度、自分自身の成果を整理すると共に、他社で実習してきた同級生の体験を共有する。                      ◆2年生は、次年度に履修する「臨地実務実習II」に対する心構え、目標設定のきっかけとし、3年生は、これから本格化する就職活動及び社会へ出て活躍するための準備に役立てる。                      ◆実習にご協力いただいた企業の方々に感謝の意を示すと共に、他社での実習を共有いただき、参考にさせていただく。また、次年度に協力いただきたい企業の方々、報道関係者に対し、開志専門職大学の「臨地実務実習」の意義をアピールし、次年度のご協力を依頼したい。</p>

③ その他

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>・ 同時に授業を行う学生数が40人を超える場合に講じる措置</p> <p>履修希望調査により40人を超える履修希望者が予測される授業科目がある場合は、原則として複数クラスを開講するように事前に教員の手配を行うこととし、年度当初の正式な履修登録に備える。</p> <p>また、教育課程表に配当されている年次以降にも受講可能である授業科目は、学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員による個別の履修相談時に、学生の履修希望や履修状況に配慮しながら、履修年次の変更を促すことも行う。</p> <p>・ 入学前の実務経験を単位に換算した場合、その実施状況 (換算の対象とした実務経験の内容と、換算した単位数、適切な換算が行われていることを説明すること。また換算の根拠となる規定等も添付すること)</p> <p>本学では学則第32条第3項において、学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力を修得している場合には、当該実践的な能力の修得を本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができることとしている。</p>	<p>※実際に実施した結果生じた課題があれば、その解決策として講じた措置についても記入ください。</p> <p>2022年度の開講科目の成績判定において、科目で不可判定の学生が発生した。こうした中で、以下の科目について、上級学年からの再受講者が加わることにより40人を超える受講者数となるケースが生じることとなった。</p> <p>そこで、2023年3月末に教務委員長と情報学部長、情報学部学務課が協議し、情報学部の2023年度の教務運営についての考え方(案)を以下のようにまとめた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、教育の質保証の重要性に鑑み、厳格な成績評価を徹底すること</li> <li>2、一部の科目について、上級学年からの再受講者が加わるために40人を超える受講者数となるケースが生じることとなるが、その際、超過人数が数人程度の場合には、機械的にクラス数を増やすことは、時間割編成への負担などを通じて、かえって教育の質の維持の障害となるおそれもある。</li> <li>3、そこで、このような場合には、2022年の設置基準の改正に伴い、授業の方法及び施設、設備その他の教育上の諸条件を考慮して、十分な教育効果を上げることができると認められる場合は、40人以上で開講できることとした。</li> </ol> <p>履修登録が40人を上回るようになった科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発技術 43名</li> <li>・現代の科学技術 52名</li> <li>・現代産業論 43名</li> <li>・クラウド技術概論 47名</li> </ul> <p>上記の科目について確かな学習環境を整備するため以下のような対策を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修人数を上回る科目については、担当教員と協議の上、必要であれば授業サポートのため学習支援員を1名以上配置し、教員の他にも質問への対応や課題フォローなどが行える環境の実現に努める。</li> </ul> <p>目的：学生がスムーズに授業を受けられるように下記サポートを行う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生・教員のPCトラブル対応</li> <li>②学生・教員のPC操作フォロー</li> <li>③PA卓・設備の操作</li> <li>④出欠確認</li> <li>⑤資料配布</li> <li>⑥学生への声掛け</li> <li>⑦演習・実習のフォロー</li> </ol> <p>授業外の支援： ○学習支援員5人 ○支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PCのつかい方</li> <li>・授業の振り返り(まとめ)</li> <li>・試験対策</li> <li>・春季講座(進級後科目の予習や既習科目の復習等)</li> <li>・支援方法</li> <li>・集合補修：授業科目の振り返り、数学の基礎</li> <li>・個別支援：予約制(2日前予約)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認心理士を配置し、心のケアにも注力し、心理的にもケアできる環境を実現に努める。</li> <li>・学習管理システム「WebClass」を活用し、必要な教材やテストの作成、レポート提出や成績データの集計について教員の負担を軽減する環境整備するとともに、学生からの質問やレポートの提出についても利便性の向上に努める。</li> </ul> <p>該当なし</p>